

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 3 年 3 月 26 日

事業所番号：1350300347

事業所名：すてっぷわん



	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		子どもたちの特性や活動内容等を考慮して、臨機応変に対応できている。	引き続き、子どもたちの様子を見ながら安全面に配慮しつつ、活動内容も踏まえて臨機応変に対応していく
	② 職員の配置数は適切である	9			一人ひとりのスキルをより高めていけるよう、引き続き精進していく
	③ 活動場所は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	1		テナントビルのオーナーとも相談し、できる限り、配慮が行き届いた環境となるよう資金面も含めて検討していく
	④ 活動空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9		感染予防対策として、より衛生面には気をつけている	引き続き、衛生面を中心に環境設定に気をつけていく
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	1	・業務の進め方において、それぞれが工夫できる環境である ・一部のみに業務が偏っている	まだまだ工夫の余地はあるので、常にブラッシュアップをかけていくよう努めていく
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		・日頃から、保護者とのコミュニケーションは、取れている ・もっともっと保護者と話をしたい	保護者の想いや困り感等に敏感に反応できるように、日常のやり取りを大切にしている
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9			
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		9		第三者機関による外部評価を、5年以内には実施できるよう努めていきたい
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		同じ書籍をスタッフがもっているため、書籍を通したスキルアップも図りやすい	引き続き、もっともっと研修・研究の機会を確保していく
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9		会議の場のみでなく、普段のスタッフ同士のやり取りの中でも、話題に上がっている	引き続き、あらゆる場面で話題に挙げ、自由闊達な意見が出てくるよう努めていく
⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9			定期的に見直しを図り、バージョンアップを行っていく	
⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9			子どもたちのより良い成長・発達を可能にしていくための計画を作成すべく、また、この工程に、どの職員も携われるように、一人ひとりの力量を高めていく	

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	皆が自由に考えを出しやすい雰囲気である	引き続き、一人ひとりのスキルアップと、チーム力の向上に努める	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	常に子どもの実態から考えていくようにしている	子どもの実態のみでなく、その時のスタッフメンバーの個性、得手不得手も考慮していく。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9			
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	所見を記載していく中で、子どもの視取り方等、スキルアップにつながっている	引き続き、所見の記載を通して、スタッフ一人ひとりのスキルアップに努めていく	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9			
	関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		より多くのスタッフが関わられるよう、もっともっと一人ひとりがスキルを向上させていく必要がある
		㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9		
㉓		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9			
㉔		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	9			
㉕		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	「移行支援」という形ではまだ行っていないが、それに近い形で連携を進めている	引き続き、必要に応じて積極的に連携を取っていく	
㉖		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	「移行支援」という形ではまだ行っていないが、それに近い形で連携を進めている	引き続き、必要に応じて積極的に連携を取っていく	
㉗		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9			
㉘		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	9	コロナ禍で組織的な動きはとれなかった	コロナ禍で組織的な動きはとれなかったが、公園や図書館での自然な関わりは、大切に見守ってきた。引き続き、大切にしていきたい。	
㉙		(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9		一人でも多くの職員が参加できるように体制を築いていく	

	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状態や課題について共通理解 を持っている	9			
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護 者に対して家族支援プログラム（ペアレント・ トレーニング等）の支援を行っている	9		保護者会等での取り組みは行わなかつ たが、普段からのやり取りの中で、積 極的に伝えていっている	コロナ禍でもあり、複数の保護者相手 にというのは難しいかもしれないが、 引き続き、個別には積極的に対応して いきたい
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	9			
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援 の提供すべき支援」のねらい及び支援内容 と、これに基づき作成された「児童発達支援 計画」を示しながら支援内容の説明を行い、 保護者から児童発達支援計画の同意を得てい る	9			
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	9		以前よりも、より深刻な相談を受ける ことが多くなってきた	信頼関係が強固になるにつれ、より深 刻化、複雑化された相談が多くなって きているため、もっともっと対応力を 高めていくことが重要
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している		9	コロナ禍で今年度はできなかった	オンラインでの開催も含めて検討して いく
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについ て、対応の体制を整備するとともに、子ども や保護者に周知し、相談や申入れがあった場 合に迅速かつ適切に対応している	9			
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予 定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対 して発信している	9			
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	9			
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	9			
	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている		9	行事そのものを行っていない	コロナ禍でもできることを検討してい く
	非 常 時 等 の 対 応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護 者に周知するとともに、発生を想定した訓練 を実施している	9		
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	9			有事の際の対応は、世の中の状況も鑑 みながら、常にブラッシュアップをか けていき、都度、情報を共有してい くように、引き続き、努めていく
④③		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の こどもの状況を確認している	9			
④④		食物アレルギーのある子どもについて、医師 の指示書に基づく対応がされている		9	該当する子どもが通所していない	
④⑤		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共 有している	9			
④⑥		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保 する等、適切な対応をしている	9			チェックリストも有効活用できるよう にしていく

	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9			
--	----	--	---	--	--	--

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。